



一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2024年12月24日(火)、25日(水)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：ハイブリッド型 東京大学+オンライン (Zoom)

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、大阪公立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、全国高等学校長協会、

一般社団法人 日本英語交流連盟、

一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

公益財団法人 Tazaki 財団



助成：公益財団法人 KDDI 財団、一般財団法人 三菱みらい育成財団



参加校 (現地) :

(北海道) 北海道釧路湖陵高校 (青森県) 青森県立青森高校、八戸聖ウルスラ学院高校
(岩手県) 岩手県立盛岡第一高校 (山形県) 山形県立山形東高校 (茨城県) 茨城県立竹園高校、東洋大学附属牛久高校、清真学園高校 (栃木県) 栃木県立真岡女子高校、作新学院高校
(群馬県) 群馬県立太田女子高校 (埼玉県) 埼玉県立浦和高校、埼玉県立川越女子高校、さいたま市立浦和高校 (千葉県) 千葉県立船橋高校、翔凜高校 (東京都) 筑波大学附属駒場高校、東京都立日比谷高校、東京都立三田高校、東京都立千早高校、渋谷教育学園渋谷高校、東洋英和女学院高等部、獨協高校 (神奈川県) 神奈川県立横浜翠嵐高校、神奈川県立湘南高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立相模原高校、神奈川県立多摩高校、神奈川県立茅ヶ崎北陵高校、聖光学院高校、栄光学園高校、慶應義塾高校、洗足学園中学高校 (福井県) 福井県立藤島高校 (山梨県) 山梨県立甲府西高校 (長野県) 長野県長野高校、長野県屋代高校、長野県諏訪清陵高校 (静岡県) 静岡県立清水東高校 (愛知県) 大成高校 (大阪府) 大阪府立北野高校 (兵庫県) 雲雀丘学園高校 (奈良県) 奈良県立奈良高校 (徳島県) 徳島県立城ノ内高校 (鹿児島県) ラ・サール高校、鹿児島県立大島高校

参加校 (オンライン) :

(青森県) 青森県立八戸高校 (岩手県) 岩手県立一関第一高校、岩手県立花巻北高校、岩手県立盛岡第四高校 (宮城県) 宮城県仙台第二高校 (山形県) 山形県立東桜学館高校
(栃木県) 栃木県立宇都宮高校、栃木県立宇都宮東校 (埼玉県) 埼玉県立浦和第一女子高校、埼玉県私立開智高校 (千葉県) 千葉県立千葉高校(補欠) (東京都) 品川女子学院高等部 (神奈川県) 神奈川県立厚木高校、神奈川朝鮮中高級学校 (富山県) 富山国際大学附属高校 (岐阜県) 岐阜県立岐阜高校 (愛知県) 愛知県立半田高校、私立東海高校 (三重県) 三重県立四日市高校 (京都府) 京都府立嵯峨野高校、ノートルダム女学院高等学校、京都橘高校 (大阪府) 関西大倉高校、関西創価高校、大阪女学院高等学校 (兵庫県) 神戸大学

附属中等教育学校、神戸市立葺合高校（和歌山県）和歌山県私立開智高校（鳥取県）鳥取県立鳥取東高校、鳥取県立鳥取西高校（岡山県）岡山県立岡山大安寺中等教育学校（福岡県）福岡県立城南高校、福岡県立香住丘高校（熊本県）真和高校、熊本県立八代高校（鹿児島県）鹿児島県立鶴丸高校（沖縄県）沖縄県立前原高校

現地 47 校、オンライン 38 校、合計 85 校

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1：The Japanese government should prohibit the use of SNS under the age of 16.

（日本政府は 16 歳未満の SNS 使用を禁止すべきである。）

予選 2：In Japan's university entrance examinations, AO examinations should be increased rather than general entrance examinations.

（日本の大学入試では、一般入試よりも AO 入試を増やすべきである。）

予選 3：The United Nations should completely ban the development and use of Lethal Autonomous Weapon Systems (LAWS).

（国連は、自律型致死兵器システム (LAWS) の開発と使用を全面的に禁止すべきである。）

予選 4：Researchers should focus their research on national policy rather than their own interests.

（研究者は、自分の興味よりも国の政策に着目した研究をすべきである。）

準々決勝：Japan should prioritize solving domestic problems over international problems.

(Examples: International problems = climate change, war Domestic problems = declining birthrate, aging population, rising prices)

（日本は、国際問題よりも、国内問題の解決を優先すべきである。

（例：国際問題＝気候変動、戦争国内問題＝少子高齢化、物価上昇）

準決勝：We are the ones who create Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan.

（大阪・関西万博をつくるのは、わたしたちである。）

決勝：SNS is more reliable than old media (newspapers, television, etc.).

（オールドメディア(新聞やテレビなど)よりも SNS のほうが信頼できる。)

キーノートレクチャー講師

- ・東京大学生産技術研究所准教授 八木俊介氏
- ・アストラゼネカ株式会社代表取締役社長 堀井貴文氏
- ・steAm 代表取締役、東京大学大学院数理科学研究科特任研究員 中島さち子氏

1 日目

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2020年大会からオンラインで開催していたPDA全国大会ですが、今年は昨年に引き続き現地：東京大学生産技術研究所とオンライン：Zoomのハイブリッド開催となりました。東京大学には北は北海道、南は沖縄まで全国津々浦々から47校の高校が集結しました。そして、メインホールのスクリーンにはZoomで大会に参加する37の高校が映し出されました。開会式では、PDA代表理事の中川智皓から「PDAのディベートは知能だけでなく知性を鍛えるものとして、相手に敬意を持ったコミュニケーションを目指しています。県外のいろんな学校と交流し、価値観を交わしていただきたいと思います。」とメッセージが送られました。その後、大会ルールや、PDA認定教育ジャッジの紹介、ジャッジによる生徒の評価方法や生徒によるジャッジの評価方法について説明が行われました。ルールの確認では、POI (Point of Information : ディベート中の質疑応答) の練習も行われ、現地とオンラインの生徒や教員が同時にPOIを行いました。



開会式の様子



代表理事 中川よりご挨拶



POI の練習



POI の練習 オンライン

開会式が終わると予選の開始です。予選1の論題は「日本政府は16歳未満のSNS使用を禁止すべきである。」でした。近年、SNSを通して多くの交流が行われ、人々のつながりが大きく広がる一方で、SNSの悪用による様々な問題が取り上げられ、SNSを危険視する声も上がっています。SNSがすでに多くの人の生活の一部となっている中で、今回の論題の対象となる年齢である高校生は、自分ごととして捉えつつも、客観的に意見を述べていました。肯定側からは、SNSの持つ課題を分析するだけでなく、16歳未満という年齢の持つ責任能力や、危険への対応能力なども考慮して、なぜ禁止する必要があるのかという意見が多く見られました。否定側からは、SNSを一律に禁止する必要のなさや、SNSの持つメリットに加え、16歳まで一律に禁止するという事は、16歳からは一斉に解禁されるわけだから逆に危険であるという意見も見られました。SNSを禁止することで全ての危険を防ぐことができるのか、禁止した後の世界はどのようになるのかをしっかりと想像して議論が両方からされ、初戦から白熱したラウンドとなりました。



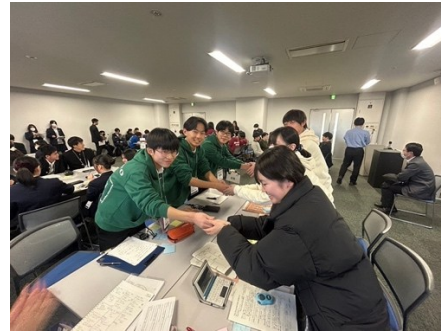
準備時間の様子(慶應 VS 真岡)



交流(大阪女学院 VS 城南)



PDA 認定教育ジャッジ・POI(青森 VS 県立浦和)



握手(柏陽 VS 甲府西)



山形東 VS 諏訪清陵



湘南 VS 釧路湖陵



八戸 VS 半田



宇都宮 VS 葺合



PDA 認定教育ジャッジのコメント(横浜翠嵐 VS 盛岡第一)



PDA 認定教育ジャッジのコメント(渋川 VS 獨協)

予選2の論題は「日本の大学入試では、一般入試よりも AO 入試を増やすべきである。」でした。昨今、AO入試の割合を増やす動きをとる大学も増えており、高校生の関心も集まっているテーマでした。AO入試の特徴、一般入試の特徴を分析し、高校生がそれらに向かってどのように努力するのか、努力の過程で何が得られるのか、そしてそれが最終的には高校生の未来の姿にどのように影響を与えるのかについて議論されていました。否定側から全ての科目を学習することが必要となる一般入試が生徒について重要であり、得意な科目だけを学習するだけでいい AO 入試を増やすことは学力の低下に繋がるという意見が見られました。その一方で肯定側からは、AO入試は得意な科目を学習するだけでなく、人間性も育む必要があり、大学入学後はそもそも専門的なことを学ぶことが求められるのだから、総合的に AO 入試の方が良いという意見が見られました。予選1で得た学びも活かして、さらに盛り上がるラウンドとなりました。



POI! (日比谷 VS 茅ヶ崎北陵)



PDA 認定教育ジャッジのコメント (湘南 VS 長野)



POI! (浦和一女 VS 岐阜)



握手 (伊那北 VS 東桜)



POI! (真岡 VS 獨協)



握手 (藤島 VS 柏陽)



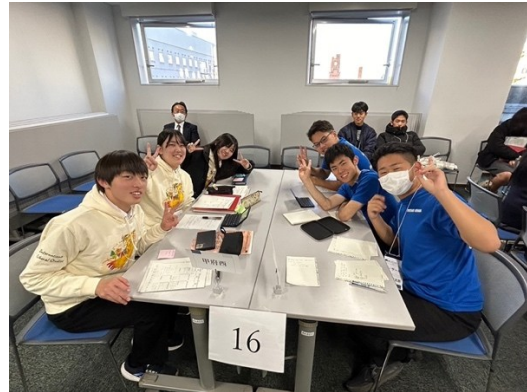
POI! (品川女子 VS 盛岡第四)



握手 (宇都宮 VS 厚木)

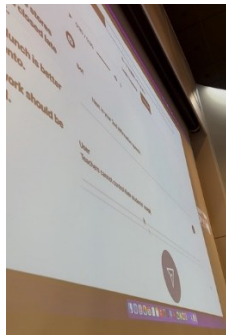


握手(青森 VS 相模原)



甲府西 VS ラサール

予選 2 と予選 3 の間に PDA スタッフよりレクチャーが行われました。レクチャーでは、AI ディベートシステムの紹介が行われました。オンライン参加者から立論となるポイント を募って立論を作成し、AI による反論や評価がすぐに出る様子を見て、現地では自身の端末で試してみる様子も見られました。



AI ディベートシステムの実演



AI ディベートシステムの紹介

予選 3 の論題は「国連は、自律型致死兵器システム (LAWS) の開発と使用を全面的に禁止すべきである。」でした。国際的にも議論がされている自律型致死兵器システム (LAWS) は AI 兵器、ロボット兵器とも呼ばれており、操作せずに自動で対象を攻撃する兵器のことを指します。あまり日常では聞かないものではありませんが、それらが持つ危険性や使われる場面、実際に使われたらどのようなことが起こるのかなど、様々な観点から分析する様子が見られました。LAWS と人間の兵士ではどのような違いがあるのか、LAWS を開発、使用することによって戦争・紛争はどのように変化するのか、被害者の数はどうなるのか、などが論点となり、白熱した議論が行われていました。予選 1、予選 2 よりも自分ごととして考えることが難しい論題ではありましたが、今までで学んだことを精一杯活かした、積極的なディベートとなりました。



POI!(清真 VS 栄光)



POI!(日比谷 VS 北野)



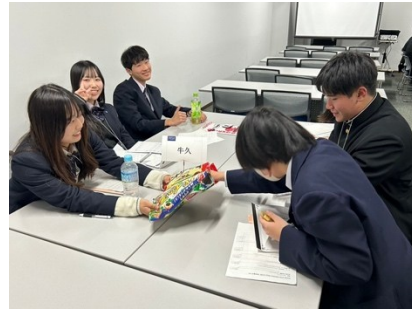
POI! (仙台第二 VS 宇都宮東)



ディベート後の交流 (香住丘 VS 鳥取東)



POI! (茅ヶ崎北陵 VS 雲雀丘)



ディベート後の交流 (牛久 VS 横浜翠嵐)

予選4の論題は「研究者は、自分の興味よりも国の政策に着目した研究をすべきである。」でした。研究者が研究する動機が一体何なのかについて、多様な意見が見られました。興味関心、金銭、利益、他者への影響など様々な動機が挙げられ、研究者が一体なぜ研究をしようとするのかについて深く分析され、積極的に議論がされていました。自分の興味よりも国の政策に着目した時、研究者はモチベーションを失ってしまうという意見が見られた一方で、同じ国に住む人たちの幸せがモチベーションになるという意見も見られました。また、興味よりも国の政策に着目した研究を行なった場合、どのような世界になるのか、国民に利益があるのか不利益があるのかについても熱く議論されていました。予選最後のラウンドということもあり、最後の1秒まで全力で話す様子が多く見られ、熱意に溢れるラウンドとなりました。



POI! (太田女子 VS 慶應)



柏陽 VS 城ノ内



握手 (聖光 VS 東洋英和)



ノートルダム VS 厚木

大会1日目はクリスマスイブ。PDA学生スタッフがサンタクロースに扮し、参加者にチョコレートプレゼントを配りました。参加者同士交流を楽しみ、1日目が終了しました。



サンタクロースからプレゼント



サンタクロースと記念撮影



サンタクロースと記念撮影



サンタクロースと記念撮影

2日目

2日目の最初は、決勝トーナメントに進むチームの発表です。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを10段階評価します。平均点が高かった30名の先生が発表されました。おめでとうございます。上位に選ばれた先生は決勝トーナメントでジャッジを務めていただきます。次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの音が響き渡りました。

予選結果

予選1位 聖光学院高等学校

予選2位 渋谷教育学園渋谷高等学校

予選3位 筑波大学附属駒場高等学校

予選4位 品川女子学院高等部

予選5位 宮城県仙台第二高等学校

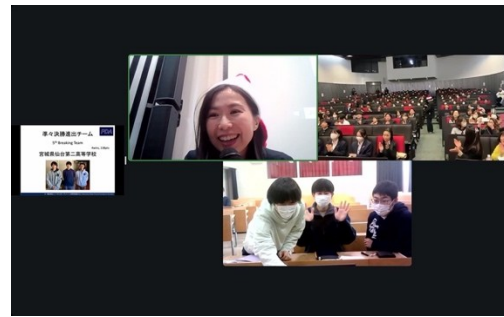
予選6位 神戸大学附属中等教育学校

予選7位 雲雀丘学園高等学校

予選8位 鹿児島県立鶴丸高等学校



本戦出場チーム発表(雲雀丘)



本戦出場チーム発表(仙台第二)

準々決勝の論題は「日本は、国際問題よりも、国内問題の解決を優先すべきである。(例: 国際問題＝気候変動、戦争 国内問題＝少子高齢化、物価上昇)」でした。プレパレーションの時間は、東京大学生産技術研究所准教授 八木俊介氏によるキーノートスピーチが行われました。エネルギー資源の研究において、ゼミや国際ワークショップ等で行っていることやその目的についてご紹介をいただきました。科学技術が国力に直結するため、経済安全保障のため、ひいては世界中の人々を幸せにするために、「自分が幸せでなければ人を幸せにすることはできない」という基本理念のもと活動されているそうです。最後に、人生は有限であり、効率よく多様なことを成し遂げることよりも自身の幸せの重要さや、何事にも一生懸命に取り組むからこそ面白く感じるということ、そして些細なことに研究の面白さが宿っている、というメッセージが送られました。生徒から「どのようになれば幸せになれると考えるか?」「面白いから一生懸命にディベートを行っているが、一生懸命に取り組むからこそ面白いと感じるという考えのきっかけについて教えてほしい」など質問の手が挙がりました。レクチャーを聞くだけでなく、自身の活動を振り返りながら聞き、キーノートスピーカーの考えを自身の生き方や活動に反映させようとする「探究心」が見て取れました。



八木先生によるキーノートレクチャー



質疑応答の様子

準々決勝は4つの会場で行われました。そのうち2つの会場では、現地対オンラインのハイブリッド対戦となりました。予選以上にPOIが活発に出され、多くの生徒が観戦する中堂々とスピーチを行いました。肯定側・否定側がそれぞれ国内問題と国際問題を比較しながら、なぜ優先度が高いのかについて具体例を交えながら白熱したディベートが展開されました。



POI! (聖光 VS 鶴丸)



画面越しの握手 (聖光 VS 鶴丸)



握手 (仙台第二 VS 品川女子)



画面越しの握手 (筑駒 VS 神大附属)

準々決勝終了後は、お昼休みです。現地では大きな輪を作って学校間のプレゼント交換が行われました。プレゼント交換をきっかけにコミュニケーションも活性化しました。昼食の時間にもコミュニケーションが活発に行われました。オンラインでは、レクリエーションとして ZOOM のブレイクアウトルームを使った生徒同士の交流が行われました。



オンラインレクリエーション



ブレイクアウトでの交流



ブレイクアウトでの交流



ブレイクアウトでの交流



プレゼント交換



プレゼント交換



昼食



プレゼント交換

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「大阪・関西万博をつくるのは、わたしたちである。」です。準備時間の間、アストラゼネカ株式会社代表取締役社長の堀井貴文氏に準々決勝の論題に関するレクチャーをしていただきました。科学的根拠のある目標と計画の必要性やアストラゼネカで行っている取り組み、さらにその社会的影響についても説明されました。生徒からは「企業成長と脱炭素の両立方法について」や「再生可能エネルギーの安定供給について」を深ぼる質問が挙がりました。

準決勝では、肯定側は万博の認識向上のためには国民が不可欠であることや地方の努力について、否定側は国民の影響力に限界があることやトラブルの可能性について分析を深めました。お互い活発に POI を行い、噛み合う議論へと擦り合わせました。



堀井氏によるキーノートレクチャー



堂々とスピーチ

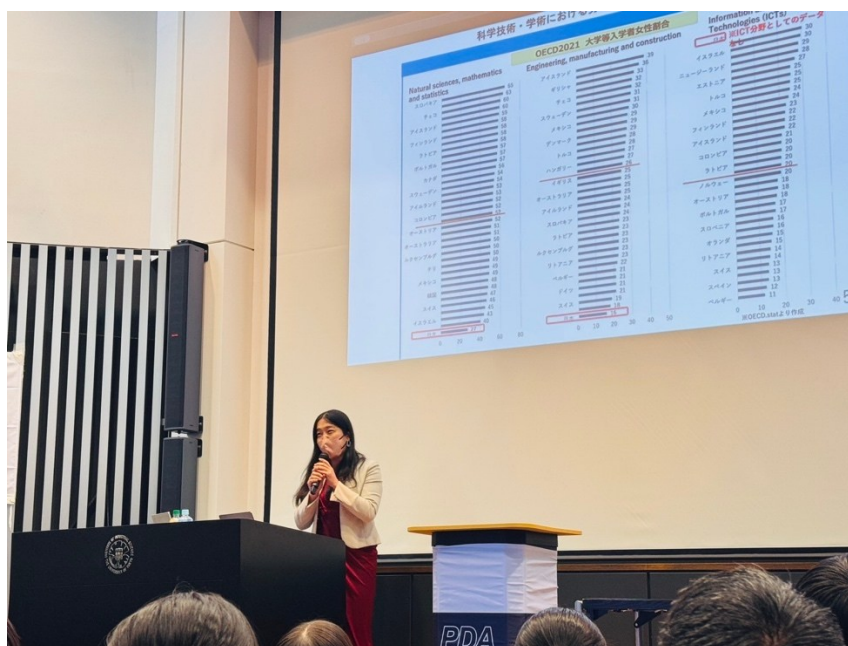


準決勝でも POI で質疑応答



ディベート後の記念撮影

準決勝の後にはついに決勝戦、そしてそれと同時に3位決定戦が行われました。論題は「ワールドメディア(新聞やテレビなど)よりも SNS のほうが信頼できる。」でした。また、決勝、3位決定戦の準備時間の間に、steAm 代表取締役、東京大学大学院数理科学研究科特任研究員の中島ちさ子氏にレクチャーをしていただきました。中島氏は準決勝のテーマにもなっている大阪・関西万博においてテーマ事業のプロデューサーをされています。大阪・関西万博の定義について、公衆教育が目的であり、営業行為は禁止されていること、テクノロジーについての言及はないことを明確にした上で、多様なバックグラウンドの人とテーマについて考えることが特徴であることや今年のテーマについて動画を使いながら詳細にご説明いただきました。準決勝の論題発表時には万博の具体的なイメージや正しい認識を持っていない生徒も多かったようですが、ホットな話題について深く知る機会となりました。



中島氏によるキーノートレクチャー

レクチャーが終わり、いよいよ最後の試合が行われました。肯定側も否定側も情報の正確性やスピードに着目し、メディアの特徴を比較しながら議論を深めました。観戦をしていたチームの中には、準備時間に試合で出されるポイントの予想を行い、上位校の試合から少しでも多く得ようとたくさんメモをしている様子も見られました。



堂々とスピーチ(決勝)



ジャッジブレイクした教員による進行



3位決定戦



POIの応酬がつづきます

決勝戦の後、シリコンバレーディベート研修に参加した生徒や社会人の方から、研修を通して得た体験について共有していただきました。Google 見学等で得たものがディベートに活かせることや、現地に行くことそのものが英語力の向上に繋がったことなどお話をいただきました。



シリコンバレー研修経験談



シリコンバレー研修参加者の再会

最後に表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われると同時に、文部科学省・外務省後援 第10回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権を手に入れた学校も発表されました。

第10回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会結果

〈チーム賞〉

優勝 神戸大学附属中等教育学校

準優勝 聖光学院高等学校

3位 雲雀丘学園高等学校

準決勝進出チーム (4位)

宮城県仙台第二高等学校

準々決勝進出チーム

渋谷教育学園渋谷高等学校

筑波大学附属駒場高等学校

品川女子学院高等部

鹿児島県立鶴丸高等学校

9位 神奈川県立柏陽高等学校

10位 千葉県立船橋高等学校

11位 神奈川県立相模原高等学校

12位 神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校

13位 私立東海高等学校

14位 三重県立四日市高等学校

15位 大阪女学院高等学校

16位 長野県長野高等学校



優勝 神大附属中等教育学校



準優勝 聖光学院高校



3位 雲雀丘学園高校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

〈授業導入優秀賞〉

- ・東洋大学附属牛久高等学校
- ・東京都立千早高等学校
- ・大阪府立北野高等学校

〈授業導入賞〉

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| ・岩手県立花巻北高等学校 | ・獨協高等学校 | ・京都府立嵯峨野高等学校 |
| ・山形県立東桜学館高等学校 | ・神奈川県立横浜翠嵐高等学校 | ・ノートルダム女学院高等学校 |
| ・清真学園高等学校 | ・神奈川県立柏陽高等学校 | ・徳島県立城ノ内中等教育学校 |
| ・栃木県立宇都宮高等学校 | ・神奈川県立多摩高等学校 | ・福岡県立城南高等学校 |
| ・栃木県立真岡女子高等学校 | ・神奈川朝鮮中高級学校 | ・福岡県立香住丘高等学校 |
| ・埼玉県立浦和第一女子高等学校 | ・山梨県立甲府西高等学校 | ・真和高等学校 |
| ・さいたま市立浦和高等学校 | ・長野県長野高等学校 | ・鹿児島県立鶴丸高等学校 |
| ・千葉県立船橋高等学校 | ・長野県屋代高等学校 | ・鹿児島県立大島高等学校 |
| ・翔凩高等学校 | ・長野県諏訪清陵高等学校 | |
| ・渋谷教育学園渋谷高等学校 | ・滋賀県立彦根東高等学校 | |

<その他個人賞> (多数、個人名は略)

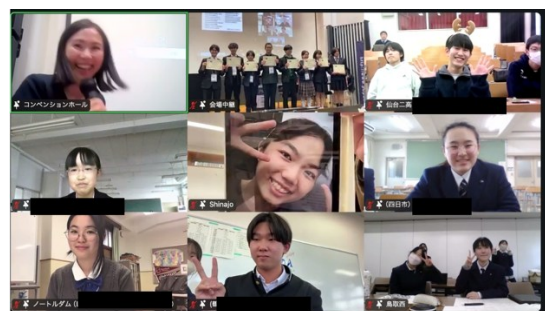
- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞、文部科学大臣賞 (ベストスピーカー賞)



ベストジャッジ賞



ベストディベーター賞



ベストディベーター賞オンライン



ベスト POI 賞オンライン



ベスト POI 賞



文部科学大臣賞

以上の結果を受け、第 10 回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の 6 校に進呈されました。

- 〈1 位～3 位〉神戸大学附属中等教育学校、聖光学院高等学校、雲雀丘学園高等学校
〈授業導入優秀賞〉東洋大学附属牛久高等学校、東京都立千早高等学校、
大阪府立北野高等学校

キーノートレクチャーの感想（抜粋）

- ・ 大学教授から話を聞く機会はありませんので良い経験になった。（青森・ウルストラ）
- ・ 一見、論題と関係のないことだと思っていたことが実際は深く結びついていたり、一生懸命に取り組むから面白いということなどこれからの生活で大切なことをたくさん知れました。
（和歌山・開智）
- ・ とても勉強になりました！特にアストラゼネカ株式会社の社長さんのお話では将来や大学受験にも役立つ情報を知れてとても面白かったです（青森・八戸）
- ・ 全部大阪万博につながっていてすごかった。（徳島・城ノ内）
- ・ 普段あまり聞くことの出来ない話をして下さり、これからの自分のためになりました。このディベートに参加して、新しいことを沢山知ることが出来ました。（三重・四日市）
- ・ 素晴らしい方々の話を聞き、各分野への知識関心を広げられてよかった。（埼玉・県立浦和）
- ・ とても興味深い内容で参考になりました。またアストラゼネカさんの社会と環境そして人間の3本柱がとても良いと思った。（東京・獨協）
- ・ 国の最先端かつ重大な事業を担う方から、なかなか聞けないような話を直接聞いたのがとても良かった。ディベートでのエグザンプルに活用したい（神奈川・多摩）
- ・ 特に2人目の方のレクチャーが、身近なこととして想像しやすい内容だったし、革新者の方々がどのように新しいことに取り組まれているのかがわかり、とても興味深かったです。
（長野・屋代）
- ・ アストラゼネカの社長さんやクラゲ館の方など、普段お話を聞くことのない方から実践についてコンパクトにまとめたダイジェスト版を聞くのはTED TALKSのようでとても面白かったです。（神奈川・横須賀高校）
- ・ 世界をより知るきっかけと自分の将来へのヒントにもなったと思います。（東京・千早）
- ・ 大変勉強になりました。それぞれのキーノートスピーカーの方に素晴らしいお話をいただき、質問によってさらに内容理解が深まりました。特に、大阪万博の話は自分の知らなかった大阪万博の一面が知れて良かったです。（奈良・奈良）
- ・ すごく深いお話をいただき、勉強になりました。（鳥取・鳥取西）
- ・ 三人ともとてもすごい方で、なにをしているのか知れておもしろかったですし、高校生に向けたメッセージがためになりました。（岩手・盛岡第四）
- ・ 世界で活躍する先人の方々の有意義なレクチャーを聞くことができ、多角的な視点から理解を深められた。（長野・諏訪清陵）
- ・ とてもためになりました。わたしの知らないところでたくさんの政策が取られていて面白いと思いました。（東京・獨協）
- ・ 現場で活躍されている方々のお話を聞け、大阪万博など日常のものへの考えが深まった
（岐阜・岐阜）
- ・ 様々な事業や研究の責任者の方から話を聞くことができ、とてもよい機会になりました。
（埼玉・浦和一女）
- ・ それぞれの分野において最前線で活躍されている方、業界を引っ張っておられる方からのお話が聞けてとても興味深かった。しっかりディベートとも関連づけられているところが良かった。（愛知・大成）
- ・ ディベート後のレクチャーは興味関心が高まった状態で聴けるのでとてもいいです。
（熊本・教員）

アンケート（抜粋）

【生徒の声】

- ・貴重な対面での開催で、全国の最愛の皆さんとディベートできたのでとても有意義な時間だった。（長野・諏訪清陵）
- ・夏合宿であった高校と再会できてまた試合できたので楽しかった。（宮城・盛岡第四）
- ・初めてディベートの大会に出させていただいて、多くの高校と対戦でき、とても楽しかったです。また、ディベートについてもたくさん情報交換できたため、有意義な時間でした。また、ディベートの魅力にも気づくことができました。（宮城・仙台第二）
- ・ジャッジの先生方が、各チーム、各ポイントに対して丁寧な説明と励ましの言葉をくださり、勉強になったから。（埼玉・浦和一女）
- ・他校のディベートチームからたくさん学ぶことがあったのと、様々なジャッジの方から自分のディベートについてたくさん意見をもらえてとても勉強になったからです。新しい友達にたくさん出会えたのも貴重な経験でした。（東京・日比谷）
- ・様々な高校とディベートができて、経験が積めたのがよかったですし、準々決勝からの強い学校の試合を観戦できたことも勉強になりました。（神奈川・慶應）
- ・まずあたたかい講評や雰囲気とても和やかな気分で楽しませて頂きました。それに加え、上位校の迫力あるスピーチを生で聞いたことが本当に嬉しかったです。これからもっともっと頑張ろうと思える素晴らしい機会になりました。ありがとうございました。（静岡・清水東）
- ・自分の高校内だけでなく全国の他校の高校生とディベートできて、新しい視点や話術を学ぶことができた。また、初めて出会ったジャッジの方にジャッジしていただき、今まで気づくことができなかつた点まで評価していただいたので良い学びになりました。（京都・嵯峨野）
- ・選手のレベルが高かったし、POIも活発で見応えがあった（長野・長野）
- ・他校の方とディベートを重ね、審査員の方からコメントを頂くなどする中で自分のディベートの力がのびたと感じられた。自分ももっとディベートを磨いていきたいと思えた。（鳥取・鳥取西）
- ・他校の方とディベートをすることが初めてだったので、これがディベートか、うおお!と圧倒される思いでした。今までやってきたことの実際がどんなものか全身で感じられたことがとても貴重な体験でした。他校とのコネクションもできたので、今後ディベートをするモチベーションがとても上がりました。（宮城・仙台第二）
- ・大会、スタッフ、相手高さんの雰囲気がとてもよく、楽しくディベートできました！（山梨・甲府西）
- ・あまりパラメンタリーディベートをしたことがなかったので、とてもレベルの高い学校さんと試合をすることが出来て多くのものを得ることが出来ました。また、白熱した試合を体験することができ、とても貴重な経験をすることができました。（埼玉・川越女子）
- ・初めて他校さんとのディベートを見て、あるいはジャッジをしてみて、大変視野が広がりましたし、学ぶことが多かったです。オフの時のおしゃべりも楽しそうでした。（大阪・大阪女学院）
- ・様々な体験ができて楽しかったし面白かったです。クリスマスならではの面白いイベントもあって、少し遠方からですが参加できて良かったと思いました。（栃木・真岡）

- ・本当に楽しかったです。意欲のあるチームの人たちとディベートできて幸せでした。
(兵庫・雲雀丘)
- ・とても楽しく、また貴重な機会をいただけたと思います。高校によって英語部がないところもあるというのがもったいないと思うほどディベートの魅力を知る1年になりました。私たちのように初心者ばかりのチームでも、先生方やPDAの方々の配慮のおかげでたくさんの貴重な経験をすることが出来ました。このような大会を開いてくださり、本当にありがたく思っています。(宮城・盛岡第四)
- ・初めての大会参加でした。悔しいけれど、勝ち負けにかかわらず経験させていただいたこと自体が非常に貴重な機会となりました。(東京・渋沢)
- ・論題がユニークなものが多く、面白かったです。また、自分の代では最後の大会でしたが、友人が今までの練習の成果を発揮することができていたと思うので良かったです。自分自身も聞き取れる部分が多くなっていたり、より強いポイントは何かなどを考える力がついていくことを実感することが出来ました。(埼玉・浦和一女)
- ・たくさん学ぶことがあり、とても楽しかったです！！最高のクリスマスでした！
(埼玉・市立浦和)
- ・ゲスト出演があったおかげでおもしろかったですし、クリスマス要素も入っていたのが良かったです。(和歌山・開智)
- ・ディベートが強かったり、英語が堪能な人と対戦することができたので、得られたものがとても大きく、これから英語の学習やディベートをする上で大切な経験になったと思います。また、シリコンバレーディベート研修で仲良くなった友達や大人の方と仲良くなれたので、めちゃくちゃ楽しかったです！(大阪・北野)

【教員の声】

- ・非常に優秀な生徒のディベートを聞いたり、ジャッジできて、今後の指導の課題や授業改善の方法が見つかったから。特に、アストラゼネカの方のレクチャーは刺激的でした！毎年、スタッフの皆さんの運営とホスピタリティーは最高です！感謝感謝です！
- ・貴重な機会をいただきありがとうございます。改めてPDAの組織としての素晴らしさを体感しました。
- ・遠隔からの見学も可能なハイブリッド大会にいただき、大変感謝しています。現在非常勤講師をしていますが、その立場でも引き続き即興ディベートの指導や自己研鑽をしていきたいと思っています。
- ・ディベート、ジャッジ、研修、キーノートレクチャーなど多義にわたる内容が、盛り込まれている点が素晴らしいと思った。
- ・今年も大変楽しく勉強させていただきました。校内でのジャッジ経験者も少しずつ増え、少しずつですが認知度もあがっています。この輪がどんどん広がり、授業での実践も広がるよう、がんばります。
- ・いつも刺激的な大会運営をありがとうございます。勉強させていただいたことを秋田県でも還元していきたいと思っています。また北田さんを始めスタッフの方々にも大変お世話になりました。引き続きお力添えをお願いいたします。ありがとうございました。

- ・とても楽しく充実した大会でした。ありがとうございました。たださえも大会運営は大変なのに、対面&オンラインともなると、更に難易度が上がったことと思いますが、善きことのために労を惜しまずにやって下さる運営の皆様には、感謝と尊敬の念でいっぱいです。
- ・毎年、この大会で、一生懸命な生徒さんに会えることが、とても楽しみです。大会の運営はとても大変だと思います。本当にありがとうございます。PDAさんの全国の高校にディベートを広げるという活動に、強く賛同しています。今後とも、スケジュールの都合がつく範囲でお手伝いさせていただければいいなあと思います。
- ・いつもスタッフの皆様、そしてキーノートスピーチや、生徒の交流を工夫してくださって心からお礼を申し上げます。この大会の運営にはいろいろなチャレンジが、あると思いました。また、突然のいろいろな質問や要望に答えていただき感謝いたします。
- ・クリスマスという時季を考慮して、音楽を流したり現地ではプレゼント交換があったりなど、参加生徒の気持ちを考慮した暖かい大会でした。PDAの姿勢がとてもよく出ていて、参加者全員が良い気持ちで大会を終えられていると思います。
- ・他県の優秀な生徒さんたちの実戦を見て、競技力の高さだけでなく、振る舞いやマナーなど人間性の高さに感銘を受けました。自校の生徒たちも刺激を受けていたようです。私自身もこの経験を今後の指導に役立てていきたいと思います。
- ・年々自分の理解が深まり、PDAにはまりそうで怖いです。現在ほかの先生が授業でPDAを取り入れています。来年度は授業導入で応募したいです！目指せ国際交流大会！
- ・はじめて2人ジャッジをさせていただき、学びの機会になりました。ハイブリッド開催で心配をしていましたが、スタッフの方のご尽力によりとてもスムーズでした。大変なご苦勞だったかと思いますが本当にありがとうございました。

以上